

岡部耕大 作・演出

B 文芸坐 ル・ピリエニけら落し公演提携作品

劇団「空間演技」公演 第18回公演

# 松浦今昔物語

七月五日(木)  
↓十五日(日)

永遠の(倭人伝)、血の(肥前松浦兄妹心中)、牙の(日輪)、揺れ動いた四部作、その怒濤の完結、成る。

●スタッフ

作・演出

岡部耕大

演出助手

高橋紳

美術

キヤマ晃二

照明

小関英勇

音響

藤居俊夫

小道具

西島隆

舞台監督

大河内日出雄

舞監助手

工藤静雄

写真

シラトケンジ

●キャスト

香車正一

鳥丸満広

香車香介

赤穂善計

働かずの吾一

妹尾琢磨

エースの凡平

片山安栄

末永素好

尾山僚司

たかりの忠義

西村和夫

巡查の保造

海原俊介

饒舌およね

鴨川てんし

猪首の吾郎

尼子狂児

海渡武

臼井宏文

博子

福田さゆり

喧嘩軍鶏の義一

加藤繁

野鼠の喜八郎

石井泰司

典子

村上寿久

馬湖正子

生方朋

伊藤千鶴子

岸田戯曲賞受賞後書き下し第一作。

## ○三浦大四郎

### なぜル・ピリエを？

映画にとどまらず 芝居や音楽や踊りや演芸や、それに座談会からシンポジウムに至るまで とも角ナマ身の人間のナマの行為を、そのまま舞台にのせたい、と長年考え続けてきました。長い稽古によって充分練り上げられたもの、即興的なもの、偶発的なもの、人間の才能、個性、修練、芸とか術とか言われるものをいろいろと上げてみたいのです。たまたま、文芸坐の地下の片隅にあるミニ空間に手を加えて その“場”とすることに決めました。名付けて「文芸坐ル ピリエ」。

### ル・ピリエってなに？

“ル ピリエ”とは、フランス語で「柱」のこと。スペースが小さいわりに巨大な柱があることと文化芸術界の“柱”たらん、との願いをこめて命名しました。どの程度、お客さまのお気に召すか、まったく分かりませんが、あれこれ試行錯誤をくり返しながら模索して行きたいと思っています。長い眼で暖く 見守ってやって頂きたいと存じます。

ル ピリエのこけら落して、祝の言葉”のひとつもいのが筋なのでしようが、いまはその余裕ありません。  
「倭人伝」肥前松浦兄妹心中「日輪」そしてこの「松浦今昔……」で四部作だそうです。それぞれの本に、やはりそれぞれの想いがあります。ですが、どっときて、ほっとした快感があったのは、この「今昔」でした。憑かれていたのかもしれない。現場にはある種の憑かれた状態がなければならんと、そうじゃなければいけないのだと、汗みどろになって、ほくの罵声と竹刀を信じて受ける連中への毎日の叱咤でもあり、ほくへの叱咤でもある毎日です。ぎりぎり追いつめて、追いつめられたところからの解放こそが、やはり現場の醍醐味でしょう。ル ピリエ(柱)とはなかなかの含みのある命名じゃないですか。われ演劇の柱とやら。初日の酒を甘露にしよう。ル ピリエ。ほくとほくら(祝の言葉)にどうやら言葉はいらないようです。

(岡部 耕大)



### 劇団「空間演技」公演記録

- 昭和46年12月 はためくは赤き群れら・魂よばいの章
- 昭和47年3月 トンテントン
- 昭和47年6月 はためくは赤き群れら・魂よばいの章(再演)
- 昭和47年10月 バトンタッチ
- 昭和47年12月 真田風雲録
- 昭和48年4月 アンタツチャブル
- 昭和48年10月 はためくは赤き群れら・雲の章
- 昭和49年6月 成吉思汗あるいは義経記
- 昭和50年4月 倭人伝
- 昭和50年12月 倭人伝
- 昭和51年5月 倭人伝外伝
- 昭和51年8月 海と組織
- 昭和51年9月 さすらいよあれがほくの風だ トンテントン
- 昭和51年12月 新選組異聞 われ心情の翼にのりて
- 昭和52年9月 創生記
- 昭和52年11月 牙よただ一撃の非情を生きよ
- 昭和53年3月 倭人伝
- 昭和53年11月 倭人伝
- 昭和54年 日輪
- 昭和55年5月 さすらいよあれがほくの風だ 牙よただ一撃の非情を生きよ (以上、全て岡部耕大作・演出による)